

杉取り扱い強化図る

瀬崎林業

瀬崎林業(大阪市、遠野嘉之社長)は、長年にわたり主要商品としてチリ製材品を扱う一方で、近年は杉梱包材をはじめとする杉材の供給にも力を入れている。今後も杉梱包材の月間在庫量を現在から20%増やすなど、杉の取り扱いを引き続き強化していく方針だ。

7月にも内航船入港

同社では2019年以降、内航船を使い九州から継続的に杉梱包材や建築用材を仕入れ

ている。九州にある製材工場と連携しており、製品需要や木材市況、自社の在庫量を考慮しながら、梱包材と建築用材の比率を変えている。21年は計3回に及ぶ内航船の配船を実施。特に同年夏の内航船による入荷は、チリ産地からの配船の乱れなどを受けて市中のチリ材在庫がひっ迫し、さら



杉梱包材のほか、建築用材の取り扱いにも意欲的だ(写真は昨年時)

に一部建築用材もウッドショックの影響から品薄となっていた時期と重なり、同社にとって顧客に対する供給力維持の一助となった。

最近では、今年7月末に内航船が川崎港へ入港した。杉梱包材1000立方メートル、KD間柱や母屋、柱などといった建築用材600立方メートルの計1600立方メートルを仕入れた。今回入荷した建築用材のほとんどは、既に販売先も決まっているという。

同船は今年に入って2回目の配船で、年内にさらに1〜2船の配船を検討している。

杉梱包材はチリ材などと比較すると強度がやや弱いとされるが、節が小さいため割れにくく、カビが発生しにくいなどの特徴を持

つ。また軽量のため、梱包業者ら利用者が杉材を持ったり運んだりする際の負担軽減にもつながっている。

加えて、輸入材と比較すると、杉は小ロット・短納期で必要に応じた手当てが可能のため、同社としても在庫リスクが低い点がメリットとなっている。